

メリリー・ブレン  
本当にあったお話をもとに書かれました。

「たがいになさげ深く〔なり〕なさい。」(エペソ4:32)

それは学校での素晴らしい一日でした。ジェフは休み時間にはいつも、親友のベンとドラゴン遊びをしていました。新しい学校に入ってから2年後によく親友ができて、ジェフは喜んでいました。ベンとジェフは好きなことが同じだったため、二人にはいつも話すことがたくさんありました。

ジェフが家に帰ると、お母さんが待っていました。お母さんはとても悲しそうに見えました。ジェフの顔からだんだん笑顔が消えていきました。「ジェフ」とお母さんは言いました。「きょう、校長先生から電話があったわ。校長先生は、あなたが同じクラスの男の子をいじめていると言っていたわ。」

「いじめてないよ!」とジェフは言いました。ジェフは、いじめが悪いことだと分かっていました。いじめは人々に悲しみと不安をもたらえます。ジェフはそんなことをしたことは一度もありませんでした。

「ほんとうに?」お母さんはたずねました。お母さんはソファにジェフをすわらせました。「校長先生は、あなたとベンがサムに向かって、あっちへ行けとか、おまえなんか仲間じゃないとか、すべり台の上から飛び降りなければ仲間に入れてやらないとか言っていたって。」

ジェフはうつむきました。サムは毎日のように、自分も仲間に入れてほしいと二人にたのんでいました。でもベンがジェフの親友であり、二人だけで遊ぶことが好きでした。それはいじていることにはなりませんよ。

「ベンとぼくの二人だけで遊ぶのは悪いこと?」とジェフは聞きました。ただ親友と遊んでいるだけでいじめっ子とよばれるのは、公平だとは思えませんでした。

「あなたたち二人がこれからも一緒にたくさんの時間を過ごすのはかまわないわ。でもサムが近くにいるときには、サムに、仲間外れにされたようなさびしい思いをさせるのはよくないわ。校長先生は、すべり台から飛び降りないことであなたがサムに悪口を言ったと言っていたわ。」

「ぼくはそんなことしてないよ」とジェフは言いました。でもベンが悪口を言ったのです。そしてベンには笑っていたのです。

「わたしたちが最初に引っこしをしたときの自分の気持ちを思い出してごらんください。」お母さんは言いました。

ジェフはうなずきました。最初、学校はほんとうにさびしい場所でした。ジェフは良い友達が見つ

# ぼくが? いじめっ子?

かるようにたくさんいのりました。

「あなたは、みんなにどんなことをしてほしかったと思う?」お母さんがたずねました。

「休み時間に、ゲームをしようとしてくれたらって思ったよ。また、一緒にお昼ご飯を食べようって。」

「今あなたにそんなすてきな友達がいるのって、素晴らしいことじゃないの?」とお母さんは言いました。「あなたは、以前のあなたのようなひとりぼっちの人たちを助けてあげることができるのよ。今からあなたに課題を出すわ。明日、サムの良いところを3つ見つけてほしいの。そして学校から帰ったら、それをお母さんに教えてちょうだい。」

「そうするよ。」ジェフは自分の足もとを見つめながらそう言いました。ジェフはいじめっ子になるつもりはありませんでした。イエスのように親切になりたいと思いました。あした、ジェフはサムにあやまることができるでしょう。そしてベンに、サムも仲間に入れてあげたいと言うこともできるでしょう。

「ねえ」とお母さんが言いました。お母さんはジェフのあごに手を当てて顔を上げさせました。「あなたは親切ないい子

よ。サムはあなたとお友達になれて幸運だわ。そしてよく聞いてね。あなたもきつと、サムとお友達になれて幸運だと気づくはずよ。」

ジェフは小さく笑みをうかべました。ベンがこれからもジェフの親友であることに変わりはないでしょう。でも、だからといってほかの友達を作ってはいけないなんていうことはないのです。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

イラスト: トム・デジヤ

## 親切にするという課題

- まだよく知らないだれかの良いところを3つ見つけます。
- イエスならどうされるだろうかと考えます。「主がそばにいたら」などの初等協会の歌をハミングしましょう。
- すべての人と親友になる必要はありませんが、親切にすることはできます。うまく付き合っていけない人に、何か良いことをしてあげます。

